

# ベランダ

窓をロックしておくことも忘れないでください。

ベランダでおこる事故といえば「転落」です。ベランダでは子どもを一人にしないように気をつけましょう。また、子どもがベランダに出られないように、

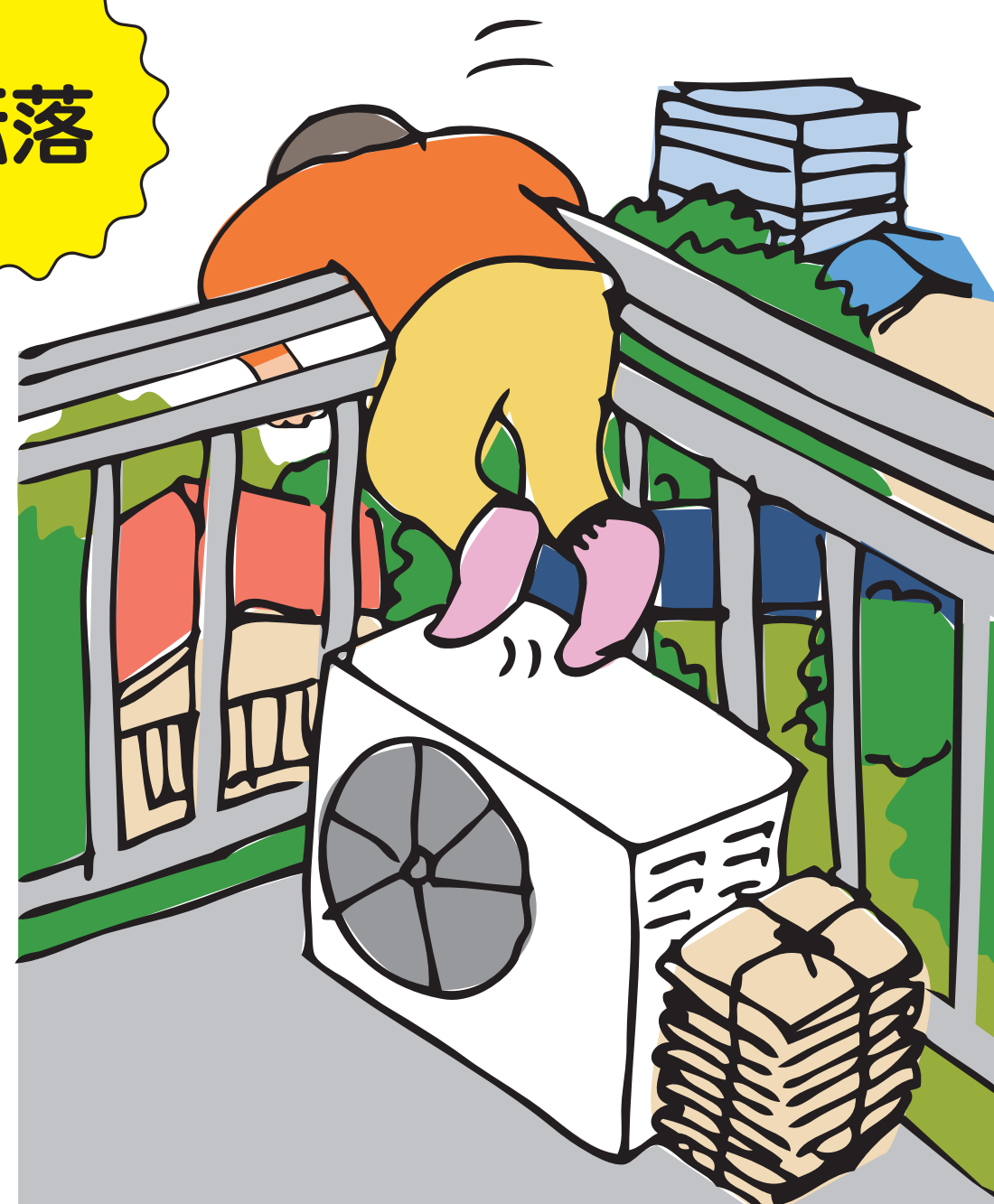
## よくおこる事故の種類

ベランダからの転落事故は後を絶ちません。柵は建築基準法が守られて設置されていても、ベランダの柵の近くにあるビールケースや、エアコンの室外機、いす、テーブル、古新聞の束、高さのある植木鉢などを踏み台にして下をのぞき込み、転落してしまう事故がおこってしまいます。また、柵のない窓からの転落事故もありますので注意が必要です。

洗濯機は溺水事故の恐れがあるので、周りに足場となるようなものを置かない



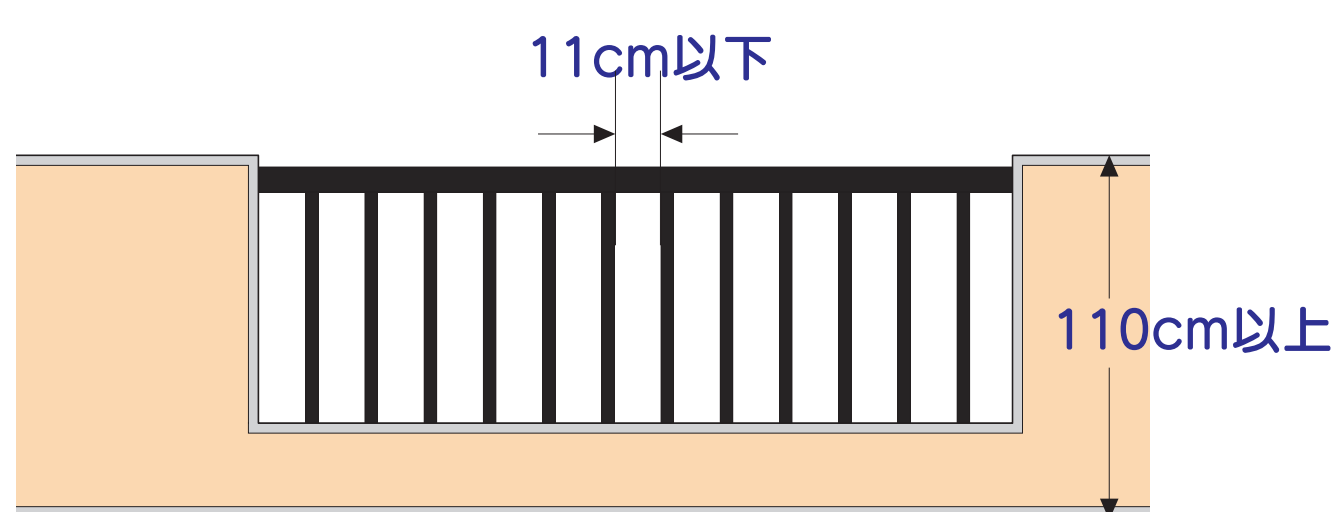
転落



## 事故を防ぐ工夫

### 柵の安全度をチェックして

ベランダは安全基準にあてはまる**110cm**以上、すき間は**1.1cm**以下(ベビーベッドの基準8.5cm以下が望ましい)にしてください。ベランダでおこる事故は、死亡や重傷などの重大な結果につながる可能性が高いので、柵の幅の大小に関わらず、子どもが小さいうちは板やアクリル板を取り付け、事故を防ぎましょう。



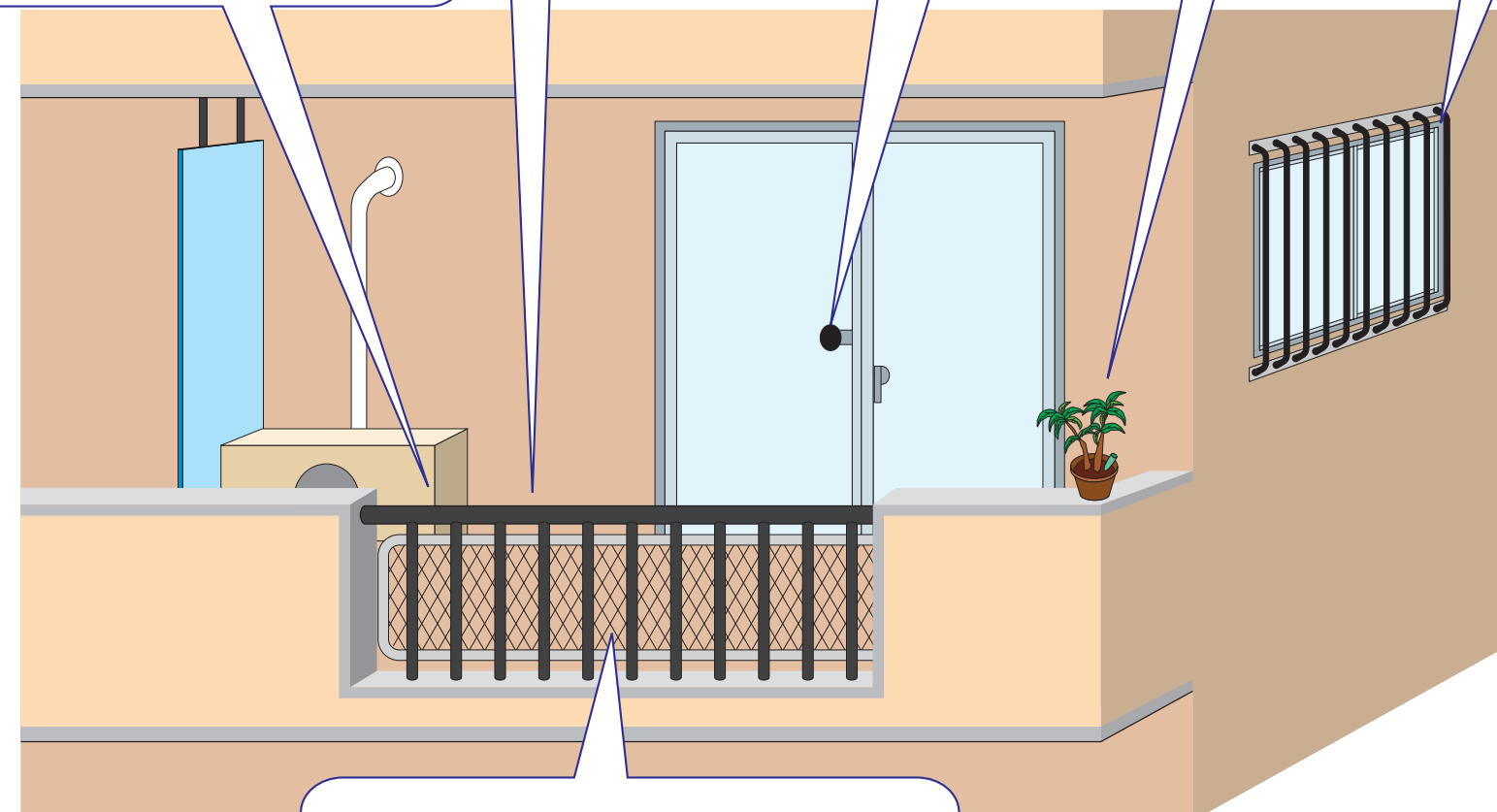
踏み台になるようなものをベランダの柵の近くに置かない(例)プランター・植木鉢、新聞・雑誌の束、ビールケース、ストックカー、ポリ容器、ごみ箱、etc

ベランダの柵の上に植木鉢等を置く習慣をつけない

アンプル形の植物  
活力剤、粒状の肥料などの使用は極力避ける

ひとりで簡単に出入れないように、窓にサッシストッパーをつける

柵のない窓には注意する



目の細かいネットを張って、いたずらによる落下事故を防ぐ

# トイレ

子どもは水が大好きです。トイレから流れる水に好奇心をそられて、つい中をのぞこうとします。そして口と鼻をおおうだけの水がわずか10cmあれば溺れる事故がおこります。また、トイレで使う洗剤は強い酸や塩素が使われており、誤飲すると食道や胃の粘膜が強い炎症をおこします。絶対に子どもの手が届かないところに保管することが大切です。

## 事故を防ぐ工夫

### 1.子どもがトイレを使うときはドアを開けておく

頭の重い赤ちゃんはトイレをのぞき込みバランスをくずして、水に頭を突っ込んでしまい、溺れてしまう危険がありますので、トイレを遊び場にならないようにガードをつけるなどの予防をしましょう。またトイレを使用する時は、ドアを閉めてしまわないようにするか、大人が見守ってあげましょう。

### 2.トイレロックを利用する

便座とフタをロックする。トイレを使いたいときはボタンで、ロック解除することができます。

高さ1m以上のところに洗剤などの保管場所をつくる

フタが開かないようにロックする

ドアのロックは外から解除できるようにしておく



## よくおこる事故の種類

おぼれる

転落

誤飲



便器をのぞき込んでいて、頭から落ちて溺れそうになった。手を洗おうとして、便器のフタの上のぼり、バランスをくずして転落してしまった。



トイレの床に置いてあったトイレ用洗剤を飲んでしまった。